

平井晩村展

家族のために才筆を振るった民謡詩人

2015年2月14日(土)～3月29日(日)

◇開館時間／9時30分～17時(金曜日は20時まで)

◇休館日／水曜日 ◇会場／1階企画展示室

◇観覧料／「企画展のみ」300円 「常設展とセット」350円

※高校生以下無料

※2月14日(土)「特別企画展初日」、3月14日(土)「記念イベント当日」は観覧無料です。

〈記念イベント〉

第10回アートステーション

平井晩村を語るくお話とギョウリトーク

日時／3月14日(土) 14時～15時30分

講師／担当学芸員(小林)

会場／3階ホール・1階企画展示室

定員／当日先着100人(参加費無料)

〈担当学芸員による展示解説〉

日時／2月21日(土)、2月28日(土)、3月8日(日)

各回14時～14時30分

会場／1階企画展示室

※会場に直接お集まりください(観覧券が必要です)

平井晩村展 家族のために才筆を振るった民謡詩人

1884(明治17)年に前橋で生まれた平井晩村は、2014(平成26)年に生誕130年を迎えました。これを記念し、本展覧会を開催いたします。

平井晩村(本名・駒次郎)は東群馬郡前橋本町(現・前橋市本町)の造り酒屋・中村屋に生まれ、前橋中学(現・群馬県立前橋高等学校)を自主退学し上京後、明治義会中学、早稲田大学高等師範部(早稲田大学教育学部の前身)に学び、報知新聞社の社会部記者として活躍しました。

文学の出発は、前橋中学時代で、校友会誌に詩や短歌を投稿し、やがて中央の文芸雑誌の「新声」や「文庫」に作品を発表します。

記者時代には、陸軍軍人の岡本柳之助からの聞き取りをまとめた『風雲回顧録』や、『頭山満と玄洋社物語』など、実録物といわれる作品を執筆し、記者を辞めて、文筆業に専念してからは、詩、小説、紀行文など、多数の作品を残しました。また、晩村は、母校である前橋中学の校歌を作詞するほか、草津節の原形を作ったとも言われています。

妻に32歳の若さで先立たれ、幼い3人の子どものために命を削りながら執筆を続け、自らも35年という短い生涯を終えた晩村は、薄倖の詩人とも称されますが、その作品には、哀しさだけでなく、愛情にあふれた視線も感じられます。

本展では、平井晩村の人と作品について、著作、作品掲載雑誌を中心にご紹介いたします。



晩村夫妻と3人の子どもたち
(後列左から晩村、妻富子、前列左から、長男達也、次男芳夫、長女正子)



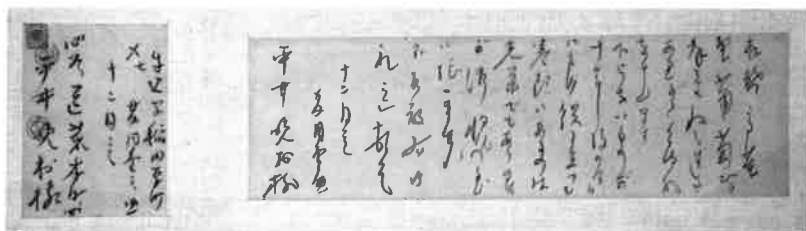
第一詩集『野葡萄』 第5版
(初版 1915(大正4)年9月 国民書院)
1920(大正9)年6月 国民書院



第二詩集『麦笛』
1919(大正8)年9月 玄文社



晩村の作品が掲載された雑誌



夏目金之助(漱石) 書簡平井晩村宛
1915(大正4)年12月3日付・消印

アーツ前橋企画展のお知らせ
音色を奏でる絵画たち
県内コレクションで迎える近代絵画の歩み
POLYPHONY OF COLORS 【観覧無料】
2015年1月24日(土)~3月10日(火)
前橋市千代田町五丁目1-16
TEL.027-230-1144
<http://www.artsmaebashi.jp/>

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館
〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目 12-10
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
<http://www.15.wind.ne.jp/~mae-bun/>

